

## 『卒業論文集』(第1号～第18号)

	タイトル	指導教員名
第18号(2017)	屋久島におけるエコツーリズムの地域経済への効果	佐藤 輝
	トイレから見る日本の衛生問題	金 香男
	《蝶々夫人》から見るジャポニズム —ブッチーニが表現した日本—	大野 英二郎
	食育・環境教育としての放射線教育のあり方 —日本とベラルーシを比較して—	高雄 綾子
	2010年以降のテレビドラマにおける女性登場人物のファッションの分析 —女性の印象・イメージ像との関係性という視点から—	和田 浩一
	知的障害児福祉の父母 石井亮一・筆子 —現代の特別支援教育を考える—	新城 道彦
	事実婚とパートナーシップ制度 —セクシャルマイノリティが生きやすい国へ—	荒井 真
	日本におけるグリーンツーリズム —観光と農村活性化—	杉之原 真子
	横浜フィルムコミッションによるイメージ戦略 —映像文化都市としての横浜—	大西 比呂志
	日本国民における新婚旅行 —幕末から今日まで—	ベンヤミン・ミドルトン
第17号(2016)	エコツーリズムによって自然環境を守れるか？ —エコツーリズムとグリーンツーリズムの分類と自然保護・環境保全の可能性—	佐藤 輝
	『La casa de Bernarda Alba』からみるスペイン社会 —Lorcaの生きたスペイン内戦時代—	寺尾 隆吉
	藤田嗣直治 —レオナルド・フジタと礼拝堂—	大野 英二郎
	音楽から平和を考える —近代音楽と現代音楽を比較して—	田丸 理砂
	箱根駅伝留学生ランナー登場時の『陸上競技マガジン』における関連記事の分析 —オツオリとイセナ、マヤカ、ワチーラ時代の3つの認識—	和田 浩一
	知られざる日韓交流の歴史 —「韓国障がい児の母」となった李方子の人生—	新城 道彦
	戦後ドイツのユダヤ人	矢野 久美子
	ホームレスの自立に向けて —欧米のホームレス支援との比較—	荒井 真
	女性の活躍推進を考える —日本はタイ王国から学べるか—	杉之原 真子
	国際関係論から見たアメリカの参戦	古内 洋平
	横浜とファッション —「ハマトラ」を通して—	大西 比呂志
	世界の難民問題と日本 —国際社会の平和と安全のために日本ができること—	八幡 清文
	経済成長の裏側に潜む水問題の展望 —ベトナムへのJICA日本の援助の在り方とは—	高柳 彰夫
	先進国の消費と途上国の飢餓 —フードシステムからみる飢餓からの脱却—	木曾 順子
	Japan's Export of Nuclear Technology and the Prospects of Sustainable Energy in the Context of Asian Security Environment	横山 正樹
第16号(2015)	インドネシアの熱帯雨林の破壊と環境保全としてのアグロフォレストリーの可能性 —ヤシ砂糖の生産現場調査と日本での利用方法の検討—	佐藤 輝
	東アジアにおける学生運動 —「ヒマワリ運動」「雨傘革命」を中心に—	江上 幸子
	マスメディアで表現される韓国の女性像 —女性の役割とは—	金 香男
	Sarah Bernhardt —ミュージックから学ぶ自己プロデュース—	横山 安由美
	横浜からハワイへ渡った人達 —日本人移民の歴史—	大西 比呂志
	日本の神社と朝鮮半島のつながり —「こま」神社を中心に—	新城 道彦
	過去の克服 —未来へつなぐために—	矢野 久美子
	著作権管理 —JASRAC独占の是非—	荒井 真
	国際法の制定は子ども兵士問題においてどのような影響を与えたのか —ICCのルバンガ判決—	古内 洋平
	経済発展と日本の女性の活躍	杉之原 真子
	ファッションに潜む闇 —縫製工場事故から考える今後のファッション—	木曾 順子
	おひとり様消費	齊藤 直
	国際保健医療の現状と今後の展望 —“国境なき医師団とシエラレオネ”先進国の社会的責任—	高柳 彰夫
	水俣病認定制度問題に関する平和学的研究 —「線引き」がどうして暴力となるのか—	横山 正樹
		フランスの環境問題とそれに関する社会的課題 —街の廃棄物問題を中心に—
エネルギーから考える持続可能な社会の実現 —地域主導のエネルギー政策に向けて—		高雄 綾子
日本軍「慰安婦」問題 —中国の大娘たちと民間支援—		江上 幸子
韓国における英語教育と早期留学		金 香男

第15号(2014)	シモーヌ・ヴェイユと革命 —根をもつためには—	横山 安由美
	横浜と在日コリアン —在日コリアンから二つの国と横浜を知る—	大西 比呂志
	民族的マイノリティーのための教育 —トルコ移民と日経ブラジル人をめぐって—	矢野 久美子
	新しい日本への選択、夫婦別姓制度 —夫婦が同じ姓を名乗る意義を問い直す—	常岡(乗本) せつ子
	「納豆」からグローバルな食糧問題を考える	馬橋 憲雄
	紛争資源と国際社会	古内 洋平
	ツーリズムとカンボジアの変容 —経済・社会効果を考える—	木曾 順子
	グローバル社会における高度移民 —各国の現状と将来像—	八幡 清文
	アンテナショップの可能性	齊藤 直
	フィリピン女性の社会的地位は本当に高いのか	横山 正樹
新聞報道における女子野球の扱われ方に関する研究 —読売新聞の1989年から2014年の記事に注目して—	和田 浩一	
第14号(2013)	ホテルの生息状況から見た日本人のライフスタイルと保全活動の変遷	佐藤 輝
	広告・メディアから見る「女性」像 —生理用品とそのテレビ・コマーシャルをめぐって—	江上 幸子
	韓国女性の労働環境の現状とこれからのワーク・ライフ・バランス	金 香男
	エリザベート —ハプスブルクの黄昏に生きた皇后—	田丸 理砂
	Georges de La Tour —ラ・トゥールの描く闇と光—	横山 安由美
	あるロシア系ユダヤ人家族と横浜 —Shapiro家の昭和史—	大西 比呂志
	動物愛護の起源と現状 —動物愛護先進国ドイツを中心に—	矢野 久美子
	代理母出産における自己決定権と幸福追求権と秩序の均衡	常岡(乗本) せつ子
	日本は女性活躍後進国から抜け出せるか —「男性稼ぎ主」モデルの限界—	馬橋 憲男
	日本のアフガニスタン支援 —「変革の10年」における官民一体支援の可能性—	古内 洋平
	日本における社会的企業の可能性	木曾 順子
	フェアトレードでコーヒービジネスを変える	八幡 清文
教育制度の充実は格差を拡大させるか？ —フィリピンのK-12実施をめぐって—	横山 正樹	
第13号(2012)	再生可能エネルギーがもたらす経済効果の検証 —脱原発とコストベネフィットの両立に向けた国際的な動向—	佐藤 輝
	中国女性と消費	江上 幸子
	言語習得の科学 —小学校における言語習得—	大野 英二郎
	ベルリンの壁 —東ドイツの人々の視線から辿る—	田丸 理砂
	復活のイエスの身体について	廣石 望
	日本文化の今後 —「クール・ジャパン」ビジネスの可能性—	横山 安由美
	中国映画からみる日本人像 —2000年代を中心に—	鄭 浩瀾
	関東大震災における朝鮮人虐殺 —神奈川県事例を中心に—	並木 真人
	経済成長への原動力としてのフランスPME(中小企業):その現状と課題	上原 良子
	なぜ日本はフェアトレード後進国なのか	馬橋 憲男
	インドの経済発展と格差 —カーストを視野に入れて—	八幡 清文
	バングラデシュの開発と障害者	高柳 彰夫
教幾による格差正当化とフィリピン支援	横山 正樹	

第12号(2011)	森林の公的価値と日本林業の展望	佐藤 輝
	環境先進国スウェーデンの市民を取り巻く状況と日本への示唆	野口 扶美子
	教育とジェンダー ～日中の教科書からジェンダー観を比較する～	江上 幸子
	クラシック・バレエとチャイコフスキー —チャイコフスキー作曲三大バレエの魅力—	田丸 理砂
	フラメンコ文化の大衆化 —民俗音楽からポピュラー音楽への変貌—	寺尾 隆吉
	美意識に関する考察 ゴッホにおけるジャポニズムと自然	横山 安由美
	日本と韓国における墓地問題とその背景 —火葬の観点から—	並木 真人
	犯罪被害者の人権とマスメディア —報道被害のない社会を目指して—	常岡(乗本) せつ子
	オランダ教育の優位性	馬橋 憲男
	インドの金融と貧困削減	木曾 順子
	ヴィクトリア時代のイギリス社会 大英帝国の光と闇	八幡 清文
	日本外交と対外援助	高柳 彰夫
	フィリピン保健医療における格差是正の壁 —プライマリ・ヘルス・ケア(PHC)の現状とその限界—	横山 正樹
第11号(2010)	大学生に対する環境教育実践の考察 —SLEの観点から—	高雄 綾子
	日本人の宗教観と世間体との関係性	大野 英二郎
	ベルリン・サロン ラーヘル・ファルンハーゲンの人物像からベルリン・サロンの魅力に迫る	田丸 理砂
	プラトンが描いた理想の愛 —人間球体説を中心に両性具有の愛とその変異—	廣石 望
	エッフェル塔の美 —異物からランドマークへ—	横山 安由美
	占領期の横浜市と米軍基地 —就労問題を中心に—	大西 比呂志
	韓国社会における美容整形 女性の生き方とアイデンティティ	並木 真人
	ナチスを選んだドイツ国民 —「普通の人々」とホロコースト—	矢野 久美子
	日本の裁判官制度について 官僚的キャリアシステムの弊害	荒井 真
	日本国憲法と自治体外交権 自治体の新しい可能性を探る	常岡(乗本) せつ子
	在日難民問題 —難民申請者が抱える医療の闇—	馬橋 憲男
	イラク戦争と人間の安全保障における諸問題	奥田 和彦
	アフリカの農村と発展 —農民の所得向上を実現するために—	木曾 順子
インド経済の発展と将来 —経済成長における光と闇を考える—	八幡 清文	
医療改革の現状における問題	齊藤 直	
第10号(2009)	大学生による国際環境協力の実践事例とその効果	佐藤 輝
	—延辺朝鮮族自治州を中心として—	江上 幸子
	アメリカのコリアン より良い生活を求めて	金 香男
	ポピュラーカルチャーにおけるチェ・ゲバラについて —映画「モーターサイクル・ダイアリーズ」を中心に—	寺尾 隆吉
	アメリカにおける自然環境保護と社会活動のバランス 国立公園の歴史と現状から	高雄 綾子
	フランス人が見る『蜻蛉集』の魅力 —日本が与えたフランス文化への影響—	横山 安由美
	「ヨーロッパにおけるすばる」 —すばるの呼称から探る、星と文化—	廣石 望
	中国経済発展の裏側 —出稼ぎ労働者を中心に都市と農村の格差是正に向けて—	石島 紀之
	女子教育におけるジェンダー —明治期から大正期までの歴史的考察—	鈴木 美南子
	植民地朝鮮における日本のキリスト教会の責任 —神社参拝を中心に—	並木 真人
	東ドイツがのこしたもの	矢野 久美子
	日本の貧困問題と生存権	常岡(乗本) せつ子
	日米同盟の現状と課題	馬橋 憲男
	少年兵の現状と世界の動き	奥田 和彦
	開発途上国の障害者 —障害と貧困の悪循環から脱却するために—	木曾 順子
	教育マイノリティーへの教育開発 —タイ山岳地帯民族を例に—	高柳 彰夫
日本人の死生観 —現代の課題を求めて—	ベンヤミン・ミドルトン	

第9号(2008)	中国における廃棄物リサイクル —特に日中の都市部の比較を中心に—	佐藤 輝
	文化財返還問題 —日本・韓国間の交渉を中心に—	金 香男
	LaexperienciaylasabiduriadeLuisSepulveda Losproblemascontemporaneosenaliteratura	寺尾 隆吉
	ことば—ドイツ語の進化と今後—	田丸 理砂
	サン=テグジュペリ —死との対峙—	横山 安由美
	現代社会における実存と宗教的世界観の可能性 —生への問いをもたらす宗教的世界観の意味への—考察—	廣石 望
	中国の食品・衛生管理体制とその問題点 「中国産」との共存を模索する	石島 紀之
	近現代日本の医療政策 —国民の健康権を求めて—	鈴木 美南子
	アメリカ人画家:フランシス・ブレイクモアが描いた日本 親日家のアメリカ人女 性が日本国民の心に投下した“Paper Bomb”	大西 比呂志
	フランスの対中東政策 —経済と安全保障の相克—	上原 良子
	ナチス・ドイツに支配された音楽 —ベルリンフィルとそれに関わる音楽家たちの苦悩と葛藤—	矢野 久美子
	児童ポルノ法改正法案についての考察	荒井 真
	自己決定権と臓器移植法 —脳死を中心に考える—	常岡(乗本) せつ子
	開発教育の可能性	臼井 久和
	日本の安全保障を再考する	奥田 和彦
	第8号(2007)	カンボジアの教育と経済発展 —教育の普及で貧困を無くせるか—
グローバル経済とタックスヘイブン —日本の税制とタックスヘイブンの未来—		八幡 清文
リプロダクティブ・ヘルス/ライツの実現 インドの母子健康を守り、女性が自 己決定権を持つために		高柳 彰夫
所得格差縮小に寄与する地域教育 —フィリピン・ドゥマゲテ市での取り組みと今後の課題—		横山 正樹
都市の残された緑地保全とその可能性 —農業・自然教育・市民参加—		佐藤 輝
グリム童話について —グリム童話における花の考え方—		田丸 理砂
閉ざされた人称 —LeGrand Cahierの“nous”をめぐる考察—		横山 安由美
東急田園都市線の開発について —ドラマ「金曜日の妻たちへ」を中心に—		大西 比呂志
戦後女子教育の変化から見るジェンダーフリー教育 —教育現場からジェンダーを問う—		鈴木 美南子
フランス的グローバリゼーションへの模索		上原 良子
国際平和構築のあり方を考える —日本国憲法前文と第9条から—		常岡(乗本) せつ子
人道的介入の正当性について —NATOのコソヴォ空爆を例に—		馬橋 憲男
日本国首相と靖国参拝		奥田 和彦
アジアにおける児童労働 —撲滅できない現実・撲滅への夢—		木曾 順子
外国人の子どもの教育と共生に向けての取り組み —ニューカマーを中心に—		高柳 彰夫
グローバル化の中のアウトソーシング —日本と世界のコールセンター—		ベンヤミン・ミドルトン
中国都市社会における女性の地位と家事労働 —北京市の事例を中心として—	横山 正樹	
第7号(2006)	日本における遺伝子組み換え作物に対する市民活動の広がり課題	佐藤 輝
	生・愛・死を見つめ続けた詩人 ジャン・コクトー —コクトーの世界—	横山 安由美
	近現代日本の主婦と家事労働	鈴木 美南子
	ヨーロッパ統合理念 —移り変わるヨーロッパの姿—	矢野 久美子
	障害児の教育を受ける権利 —分離教育の合憲性の可否を問う—	常岡(乗本) せつ子
	テロ対策と人権 —9.11以降の米航空政策—	馬橋 憲男
	新たな国家建設の歩み —日本とドイツの比較研究—	奥田 和彦
	マイクロクレジットと貧困緩和の実現 —グラミン銀行を事例に考える—	木曾 順子
	日本とフィリピンにおける思春期の性教育 —背景に潜む問題を比較して—	高柳 彰夫
	まなざしに囚われた男女 —<くらしさ>の演技—	ベンヤミン・ミドルトン
	医療保険に加入できない外国人の健康問題とカトリック教会の取り組み	横山 正樹

第6号(2005)	東アジアにおける中間層の台頭と社会変化 —中間層は経済交流の担い手となるか—	石島 紀之
	日本の難民受け入れの現状と課題 —真の共生社会を目指して—	馬橋 憲男
	高度成長期以降における横浜の都市形成 —みなとみらい21事業を中心に—	大西 比呂志
	日本の難民問題 —その実態と課題—	奥田 和彦
	アフリカとエイズ —TRIPS協定をめぐる動き出した国際社会—	木曾 順子
	環境保護先進国ニュージーランドの取り組みとその成果 —固有の自然環境と動植物を守るための方策—	佐藤 輝
	歴史教育を考える —日本と韓国の教科書を比較して—	鈴木 美奈子
	学閥・学歴から見る韓国社会 —教育熱を中心に—	並木 真人
	社会保障の国際比較	八幡 清文
	カルロス・ゴーン —コスモポリタニズムに見るリーダー論—	横山 安由美
	フィリピンの軍事化と人権問題 —アキノ政権における国事の考察—	横山 正樹
第5号(2004)	グローバル経済における知的財産権 —日本経済・企業発展へのビジネス戦略—	八幡 清文
	フランス革命期におけるギロチンの諸相 —死刑の裏を探る—	横山 安由美
	日韓関係を考える —日韓関係の歴史的考察と日韓共生協力へ—	鈴木 美奈子
	フェア・トレード —持続可能な市民社会を目指して—	馬橋 憲男
	院内学級を変える教育環境の構築 —子ども達に開かれた環境の場を—	春木 良且
	少年の人権と報道規制 —実名・推知報道を問い直す—	常岡(乗本) せつ子
	エコツーリズムの目指すべき姿 —環境の「アウェアネス」から「共栄」への道筋—	佐藤 輝
	横浜の国際交流 —ボランティア活動を通して考える—	高村 直助
	人間開発、社会開発と教育開発 —人々のエンパワーメントのための教育援助—	高柳 彰夫
	困われた庭 —その構造が持つ特徴を考える—	内田 吉彦
	コーポレート多文化主義の検証 —オーストラリアとカナダの比較を通して—	ベンヤミン・D・ミドルトン
	沖縄の米軍基地返還問題 —北谷町と読谷村にみる跡地利用政策およびその実態の比較研究—	横山 正樹
東ティモール紛争 —国連介入のジレンマとその可能性—	奥田 和彦	
第4号(2003)	エイズ問題のグローバルガバナンス —医療の南北格差が生んだ現代社会の病—	馬橋 憲男
	中国における都市社会組織の変遷 —単位から社区へ—	石島 紀之
	湖沼から考える開発と環境 —霞ヶ浦開発事業を事例に—	横山 正樹
	記憶の物質化 —ブリーモ・レーヴィと沈殿するベシズム—	矢野 久美子
	ポール・ゴーギャン —内面的世界の探求—	横山 安由美
	横浜・慶応二年の大火	高村 直助
	ホテルとIT —ITを味方にしていくホテル—	春木 良且
	フランスにおけるアメリカニゼーション —「アメリカ」とフランス社会の変容—	上原 良子
	目指すべき環境経営 —環境経営と現代の消費者—	八幡 清文
	戦争から武力行使へ —多様化する現代の戦争—	奥田 和彦
	公害都市から環境都市への街づくり	本間 慎
グローバル時代の新エリート —現代民主主義の病—	山之内 靖	
第3号(2002)	輸入食品による残留農薬問題の現状と対策 —とくに、中国冷凍ホウレンソウの残留農薬を中心に—	山之内 靖
	フランス人におけるアイデンティティの複合性 —Asterixを通じて見たケルト的要素—	二宮 宏之
	朝鮮王朝に嫁いだ李方子 —国家レベルの結婚がもたらした事実とは—	早川 嘉春
	核のない世界を目指して —核兵器の削減と取り組み—	馬橋 憲男
	植民地期朝鮮の「新女性」 —金一葉の生涯と思想を中心に—	並木 真人
	ハンセン病終生強制隔離政策における医療従事者の功過	鈴木 美奈子
	現代日本の失業と社会セーフティネット —豊かさのためのワークシェアリング—	八幡 清文
	顕在化する反グローバリズムの潮流 —超国家ブランド企業とWTO問題—	山之内 靖
	フィリピンにおける開発事業と住民移転問題 —バダガス港事業とサンロケ多目的ダムプロジェクトをめぐる—	横山 正樹

第2号(2001)	人道援助は国境を越えられるか —NGO「国境なき医師団」のジレンマ—	二宮 宏之
	グローバリゼーションの時代の病理 —その認識と超克を考える—	山之内 靖
	BUREAUCRATICCORRUPTION AS THEGREATESTTHREATTO THE DEVELOPMENTOFTHEPHILIPPINES	弓削 昭子
	エコロジー建築の意義 —本学における屋上緑化と雨水利用に基づいて—	本間 慎
	イメージ —感覚装置から回復装置へ—	山之内 靖
	フェア・トレードによる第三世界との市民連帯論 —バランゴンバナナがつないだ人と人の輪—	横山 正樹
	河合栄治郎の自由主義とファシズム批判	鈴木 美南子
	ドイツの外国人問題	臼井 久和
第1号(2000)	家庭における男性の役割 —女性のエンパワーメントを高めるためのアプローチを考える—	武者小路 公秀
	INTERNATIONALCOOPERATION FOR PREVENTING HIV/AIDS —AStudy ofUNAIDS GlobalStrategyfor AdolescentEducation—	弓削 昭子
	日本安全保障条約の再検討 —日本国憲法第9条に基づく日本の安全保障政策を考える—	臼井 久和
	寄せ場労働者・路上生活者の平和学的研究 —日本社会における暴力克服をめざして—	横山 正樹
	ヒトに優しい都市の考察 —ドイツの街づくりとその発想—	武田 武長
	ダイオキシンによる母乳汚染の問題点 —妊婦からのアンケート調査に基づいて—	本間 慎
	グリム童話の「残酷性」について —大人の視点と子どもの視点—	矢野 久美子